



和銅会報 No.25 秩父市和銅保勝会

平成 21 年 (2009) 7 月 10 日 発行

埼玉県秩父市黒谷 567 (TEL 0494・23・5631)

会長 若林 好

新たな和銅の世紀を迎える

—和銅奉獻 1300 年記念事業の余韻にひたる申—

1 月 8 日の祝山「大岩祓い」に始まった和銅奉獻 1300 年記念奉祝事業は、11 月 3 日「秋の和銅祭り（聖神社「和銅出雲神社」大祭つけ祭り）」をもって予定行事は終了いたしました。現在足掛け 3 年に亘る奉獻事業の記録集『和銅』を編集集中で、3 月 15 日発刊の予定になっています。和銅への理解が深まり関心の高まったこの記念事業の意義を更に多くの方々にお分かちでき、和銅遺跡の保護顕彰運動の一層の進展を期待いたしております。どうぞ本年もよろしくご協力いただけますようお願いいたします。

高官来訪つづく

橋本光男埼玉県副知事視察訪問＝

秩父地域振興センターのご高配により、上田清司埼玉県知事、岡島敦子副知事につづき橋本光男副知事にも 11 月 6 (木) 日、多忙な日程を割いて視察訪問いただきました。文化財の保護顕彰に深い理解をいただき、関連施設の拡充についても温かい励ましの言葉をいただきました。



全国各地の研究者との交流深まる

全国ネットで「和銅祭」「秩父和銅」紹介の音田俊幸さん(東京都)



音田さん(向かって左)

祭りにも、和銅遺跡にも足を運び、秩父の人も及ばない「和銅」通であると言って過言でない方で、自家（白鳳堂）豪華版の『和同開珎—発行千三百年記念泉譜—』を上梓され、その中で詳細に記念事業を紹介されています。次いで貨幣専門誌の最新号(2008 年 12 月号) に発表の「武蔵国秩父黒谷を訪ねて」は、和銅と和同開珎を学ぶ者の必読の紀行、報告と言っ

てよいでしょう。面談の折り、音田氏から承った貴重な和銅情報も機会を見てご紹介させていただく予定です。

上社まで紹介される聖神社研究家の年名優さん（大阪府）

百社にも及ぶ聖神社が全国に鎮座されていることを紹介されたのが年名さんです。黒谷の聖神社が上・下二社あることの照会を通じて、私共の交流が始まりました。和銅講演会（平成20年5月11日）の時、年名さんから戴いた資料の展示をさせていただき多大な反響を呼びました。



年名さんは、国指定重要文化財「聖神社」（大阪府和泉市王子町）の禰宜さんで、社報『聖さん』を発行されています。昨年9月号には黒谷「聖神社」巡拝の記事を載せていただきました。

「古代ロマンへのいざない」和銅遺跡見学ツアー

ツアー参加団体スナップ

旧制高等学校出身者の会（代表・齋藤国彦氏）の「寮歌祭」が秩父を会場に開かれ、見学地に「和銅遺跡」を選んでいただきました。11月10日、思い思いの出で立ちの一行は、元気そのもの、露天掘り跡まで登って熱心に見学されました。代表者の秩父市在住の齋藤国彦氏は、かつて中国旅行の折り遼寧省博物館を視察され、和同開珎関係資料を提供されて以来のお付き合いをいただいている方です。



和銅遺跡見学ツアー続行

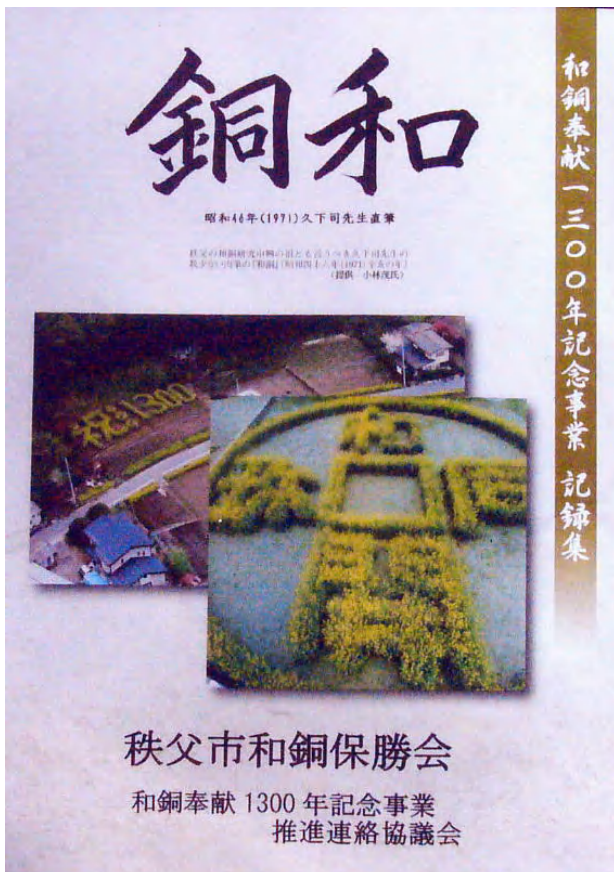
平成20年7月開始の和銅遺跡見学ツアーは、多くの参加者を得て好評のうちに計画が実施できました。これを機に『案内資料 和同開珎』も発行され、従来の和銅保勝会案内部の充実発展を期して「和銅遺跡ボランティア案内・解説員（仮称）」制度を設立する企画も進行中です。

- 実施日 毎月 第2・第4日曜日 ●集合場所、時刻 秩父鉄道『和銅黒谷駅』・9時30分
 - 参加費 300円(父母同伴の小、中学生は無料) ●当日受付(予約受付も可)
- 連絡先 秩父市和銅保勝会(5 0 4 9 4 - 2 3 - 5 6 3 1)

和銅奉獻 1300 年記念事業

記録集『和銅』発刊

3年越しの大事業も、平成20年11月3日の「秋の和銅祭」をもって、多大の成果を挙げて閉幕することができました。その全記録の収録を目指して『和銅』(A4版94頁)が発刊されました。



表紙題字『和銅』は黒谷和銅研究の第一人者久下 司 氏の肉筆から戴き、写真は「菜の花『和同開珎』」の航空写真です。構成はグラビア『写真で見る記念行事』、本文は事業担当者、推進者による『経過・資料』、講演会・フォーラム等に寄せられました『学者、研究者の論文集』となっております。付属資料として『ビデオと写真による DVD』があります。和銅の現代と未来を考える上の一つ



の足場を築けたかと、いささかの自負をもって発刊いたしました。

『和銅』に記載はできませんでしたが、この間、いろいろな所でいろいろな方々が和銅の顕彰に多大のお力添えを頂いたことがありました。その幾つかを紹介させていただきます。

驚いたのは、一昨昨年（平成 19 年）早くも 5 月 31 日付け埼玉新聞「歌壇」の「**子供らが獅子をかざして舞い踊る秩父黒谷の雨ごいささら箆**（熊谷）宇津木連峰」でした。黒谷へ来て黒谷獅子舞をご覧になっての歌だったのです。秩父和銅祭直後の 4 月 17 日には武蔵野歌人会の方々（東京、京浜、千葉、相模原、地元秩父の各支部の会員）の和銅吟行があり、会長・新井悦子さんの「**緑青に身を装いて神宝の蜈蚣が一三〇〇年の時語り出す**」をはじめとする和銅を讃え古代を偲ぶ短歌の献納を給わり、聖神社境内に掲額させていただき奉祝の気分を盛り上げていただきました。芝桜の丘での秩父市民踊連合会の皆さんの「開珎音頭」の華麗な舞は、百万のお客さんに秩父の古代を印象づけていただきました。

夏になり、8 月 14 日「合歓の盆 第四十回秩父音頭まつり記念」歌詞募集の特選に「**水と緑と和銅の遺跡 彩のお国の宝物**（寄居町）大澤政雄」が躍り出ました。8 月 28 日には秩父市俳連主催の和銅吟行ハイク & ハイク。「**露天掘り跡を棲処の昼の虫**（大野ひろ志）**水澄めり和銅の地層くぐり来て**（宮田富昭）」をはじめ、和銅の里の風物を詠んでいただきました。盆踊りから秋祭り、秩父郡市内各地の「開珎音頭」の普及は予期せぬ和銅効果を招いていただきました。

最近では、「第 10 回秩父鉄道の俳句」に選ばれた「**花に酔ひ地酒に酔ひて和銅祭** 吉田和江」が秩父と和銅の名をいやが上にも響かせていただきました。掘り出し物では、美野山の大浜サイ子さん提供「大浜佑一氏蔵『和銅劇団々則』（昭和 22 年結成）と名簿」、更には役者姿の写真です。「和銅」を名乗る面々に秘された伝承の糸口が転がり出ないとも限りません。

